



"おすそわけ" する家

Concept

他人から買った品物や利益の一部などを、さらに周囲の人達に分け与える"おすそわけ"という古くから日本にあった行為から、建築を考える。左下図 1.2 のように、現在多くの住宅と住宅の間にはプライバシーを確保するための塀が張り巡らされており、どんなに豊かな犬走り空間であってもそこで佇んだり、自由に手を加えられるのは住人だけである。そこで、これまでのような周囲に対して自らのふるまいを感じさせず他者を排除するような関係性ではなく、そこで住む人や隣に住む人、またはそこを通る人達が自由に作り込める場所を用意することで豊かな環境をまちにおすそわけする。また、それらを眺められる



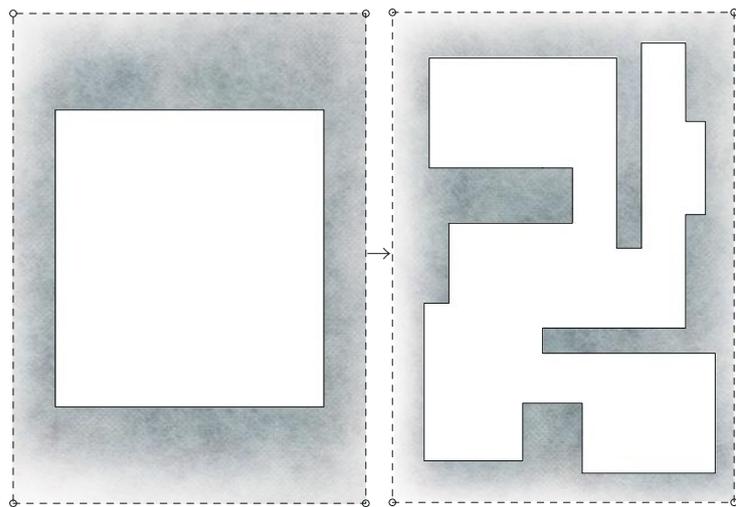
図 1



図 2

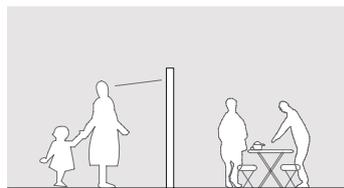
ようなふとした佇みの場を周囲に張り巡らし、一時的にその場所を占有できる状況を与えることで人々が互いに交わる外部空間をおすそわけする。また住人と他者を緩やかに関係づけるような視線の関係を、塀とレベル差によって作り出し、両者が共時的に活動できる場所を作り出すことで、領域をおすそわけする。そうした豊かな空間を他者におすそわけすることで、他者との関係を築きながら様々な変化を感じることができる包容力のある住宅となるのではないだろうか。

Diagram

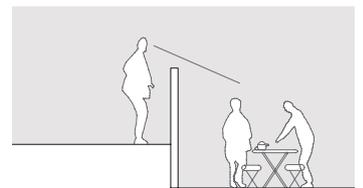


建蔽率によって生まれる余白

大小様々な余白と小さな居場所を生む



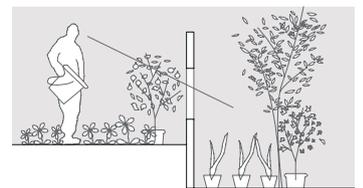
視線は遮るが音や気配を感じる



レベル差により接触する機会が増える



塀に佇める小さな場所を設える



領域を広げるような開口